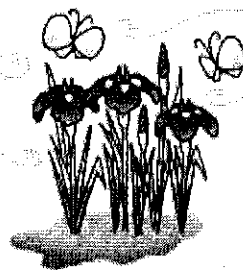


5/28(土) まいど! 希々号です、いっくんと重宝でも目標があれば、  
長生き本様を秘訣とか、

30周期です、大先輩には負けません、  
喜や運ぶ所へ鳥

五月のテーマ  
「年の取り方」考



え・たむらかずみ

# 大先達の気骨に 何を学ぶか

**吾** は楽のため。つらいのは、  
良い薬。薬ばかりしていると

ろくなことはない。これは、現在  
発売中の「気と骨スペシヤル」(D  
VD+ブックレット)で語られる百  
一歳の水泳世界記録保持者・長岡  
三重子さんの言葉です。

「気と骨」とは各界で活躍する  
大先達を訪ね歩き、写真と文章で、  
その歩みと信条の一端を紹介する  
プロジェクトです(制作・大久保  
學氏)。倫理研究所では、月刊誌「新  
世」にて、平成二十二年より「気  
と骨」の連載が始まりました。長  
岡三重子さんも、このシリーズに  
登場されたお一人です。

長岡三重子さんは、大正三年、  
山口県徳山市の生まれです。商家  
に生まれ、女学校を卒業後、菓工  
品の御問屋を営む長岡家の長男に  
嫁ぎました。

二人の男児に恵まれたものの、  
病気がちだった夫は、五十六歳で  
逝去。三重子さんは長岡本店を後  
継し、九十五歳まで現役経営者と  
して長岡家を支えてきました。五  
十五歳からは能楽の世界に触れ、

趣味の領域を越えて、真剣勝負の  
ように打ち込みました。

三重子さんが水泳を始めたのは  
八十歳になってからです。膝関節  
の痛みから正座することが困難に  
なり、長男・宏行氏の勧めで、リ  
ハビリ目的でプールに通うようにな  
りました。当初は二十五メートル  
を泳ぎきることもできませんで  
したが、宏行氏の励ましもあり、  
水泳教室に通い続けます。八十八  
歳の時、軽い気持ちで世界大会に  
初参加したところ、銅メダルを獲  
得。九十歳での世界大会では銀メ  
ダルを三個獲得します。

そのメダルの「色」が闘志に火  
をつけたのでした。(何が何でも金  
を取らないと泳ぐ意味が無い。エ  
ベレストが世界で一番高い山だと  
は、皆が知っているが、二番目の  
山など誰も知らない。やるからに  
は、一番にならなければ)と、彼  
女の挑戦が始まったのです。

それからは出る大会、出る大会  
で、世界新記録を打ち立てます。  
平成二十八年三月現在、三重子さ  
んは二十五の世界記録と、四十二

の日本記録を保持しています。現  
在も、息子の宏行氏と二人三脚で  
新たな記録に挑んでいます。

このように新たに挑戦し続ける  
背景には、「なせば成る」という母  
の教えが、年を重ねてもなお心に  
生き続けていたことがあったよう  
です。

また、夫亡き後、一人で商売を  
切り盛りする中で養われた挑戦心、  
能楽で培った強い精神力も、大き  
く影響しているでしょう。三重  
子さんの生き方は、どんな分野で  
も「なせば成る」ことを身をもつ  
て教えてくれています。

さらに、物事をスタートするの  
に、何歳になっても遅すぎること  
はないこと、また、目標を持つこ  
とがいかにかに人生の張り合いになる  
かということなど、三重子さんの  
言葉と生き様は私たちの希望の素  
となり、指針の一助になるのでは  
ないでしょうか。

大先達の生き方に学ぶこと。そ  
れは、日本人として大切にしてい  
くべき精神と行動のあり方を探る  
大きなヒントとなるはずです。